

為替週間展望 = ドル円は最近のレンジ内を中心とする値動きか

[4月20日からの1週間の展望]

週間高低 (カッコ内は日)		4月13日～4月17日			
	始値	高値	安値	終値	前週比
ドル・円	159.35	159.86(13)	158.27(16)	159.34	+0.07
ユーロ・ドル	1.1688	1.1824(16)	1.1658(13)	1.1778	+0.0055
=====					
国内株・金利/米国株・金利					
	終値	前週末比	終値	前週末比	
日経平均株価	58,475.90	+1551.79	日本10年債利回り	2.427	-0.011
ダウ平均株価	48,578.72	+662.15	米10年債利回り	4.311	-0.006
=====					

<来週の主要経済統計等>

20日 NZ 3月貿易収支

英4月ライトムーブ住宅価格

中国最優遇貸出金利 (ローンプライムレート 1年 5年)

独3月生産者物価指数

カナダ3月消費者物価指数

21日 NZ第1四半期消費者物価指数

英3月雇用統計

独4月ZEW景況感指数

米3月小売売上高

米3月中古住宅販売成約指数

ケビン・ウォーシュ氏の公聴会 (米上院銀行委員会)

22日 日本3月貿易収支

英3月消費者物価指数、英3月生産者物価指数、英3月小売物価指数

23日 独4月製造業PMI速報値、独4月サービス業PMI速報値

ユーロ圏4月製造業PMI速報値、ユーロ圏4月サービス業PMI速報値

英4月製造業PMI速報値、英4月サービス業PMI速報値

カナダ3月鉱工業製品価格

米新規失業保険申請件数

米4月製造業PMI速報値、米4月サービス業PMI速報値

24日 日本3月消費者物価指数

英3月小売売上高

独4月ifo景況感指数

米3月耐久財受注速報値

カナダ2月小売売上高

米4月ミシガン大学消費者信頼感指数確報値

【前回のレビュー】米国とイランの停戦協議は短期間で穏やかな決着に至る可能性は低いとみられ、難航する協議の行方を眺めながらドルや主要通貨は高下する動きを継続することとなりそうだ。こうした中、ドル円は高値圏での一進一退の動きが継続するとした。

【ドル円は160円手前での高下が続く】

11～12日に開催された米国とイランによる停戦協議は合意に至らず、週明けの13日は有事のドル買いでスタートして、ドル円は159.80台まで上昇した。その後、協議再開の可能性が示唆されたことで14日には158.50台まで下落した。

15日のドル円は小幅な値動きながら、米国とイランによる早期の協議再開への期待

感から159円台前半で上値を抑えられた。

16日に三村財務官の「財務官レベルで緊密に連携することを日米で確認した」との発言を受け一時円買いが進み、ドル円は158.20円台に下落した。ただ、片山財務相が「G7では利上げは経済に悪影響、今は様子見との声が多かった」と発言したことから、日銀が4月に利上げする可能性は低いと市場は判断。ドル円は円安に傾いた。ドル円はその後159円を回復する水準まで上昇を見せた。

日銀の植田総裁は17日、最近の中東情勢を踏まえての政策判断に関しては、原油高に伴う物価の上振れリスクと景気下振れリスクの両方があり「政策対応は非常に難しい」と述べた。金融政策の方向性を示さず、今日の日銀会合での利上げの示唆がなかったことで、円売りの流れに傾いた。ドル円は159円台半ばまで総じて上昇して、クロス円も全般に上昇した。

ドル円は上値を抑えられやすいながらも方向感の出にくい展開となった。介入への警戒感から160円が視野に入ると上値を伸ばしにくい展開となった。一方で、158円台前半では買いに支えられやすい展開となった。

【米国とイランの停戦協議の行方に注目】

4月20日の週に予定される日米の経済指標やイベントは、21日に米3月小売売上高、米3月中古住宅販売成約指数、22日に日本3月貿易収支、23日に米新規失業保険申請件数、米4月製造業PMI速報値、米4月サービス業PMI速報値、24日に日本3月消費者物価指数、米3月耐久財受注速報値、米4月ミシガン大学消費者信頼感指数確報値などがある。

16日にトランプ米大統領はSNSで「イスラエルとレバノンが10日間の停戦で合意した」と発表した。トランプ米大統領は米国とイランの戦闘終結に向けた次回の会合に関して、週末にかけて実施する見通しと述べている。

今後も米国とイランの停戦をめぐる動向が注目される。米国株ではナスダックやS&P500が最高値を更新するなど、イラン紛争をめぐる警戒感がやや後退しつつあるようだ。米国とイランが停戦や戦闘終結に向けて踏み込んだ議論を行い、ホルムズ海峡の航行が通常に近いレベルに戻るようなら、ドル売りに傾きそうだ。ただ、トランプ米大統領の発言は予測がつかず、想定外の内容となって市場を混乱に陥れる可能性はあるとみられる。

米国とイランは停戦合意や戦闘の終結に向けた協議の動向に左右される。引き続き米国とイランを中心とする中東関連のニュースヘッドラインに修される展開となろう。ただ、ドル円は上下にあまり極端な値動きを見せるとは想定しにくく、最近のレンジ内を中心とする値動きが見込まれる。目先の予想レンジは156.00～161.00円。

【ユーロドルやポンドドルは堅調な推移か】

13日以降のユーロドルは上昇基調で推移した。13日には「米国とイランの協議は継続している」との報道から1.17台後半まで上昇した。14日には「今週中に米国とイランの2回目の協議が実施される可能性」との報道や3月の米生産者物価指数（PPI）の下振れでドル売りとなり、ユーロドルは一時1.18台に乗せた。15日も底堅い動きとなり、1.1811近辺まで一時上昇した。16日には伸び悩みを見せ、1.17台後半まで下落している。

ドルの強さを示すドルインデックスは6日に節目の100.00を割り込むとその後下値を探る展開となり、14日に97.96近辺まで下落している。ドルの弱さがユーロドルが上昇してきた背景にある。原油高によるインフレ懸念の高まりから欧州中央銀行（ECB）の利上げは年内2回程度と見込まれており、ユーロドルの上昇要因となっている。上昇が続いてきたことで過熱感が高まりつつあり、若干の調整を交えながらも堅調な流れが続くとみられる。ユーロドルの目先の予想レンジは1.1650～1.1950ドル。

ポンドドルも原油高による英国でのインフレ圧力の高まりやドルの弱さから上昇基調で推移してきた。英中銀（BOE）による年内の利上げ回数見通しは1.4回程度とな

っている。1. 36ドル接近ではやや上値は重いものの、調整一巡後は再び上昇に転じるとみられる。目先の予想レンジは1. 3400～1. 3800ドル。

今後の日米以外の経済指標としては、20日にNZ3月貿易収支、英4月ライトムーブ住宅価格、中国最優貸出金利（ローンプライムレート 1年 5年）、独3月生産者物価指数、カナダ3月消費者物価指数、21日にNZ第1四半期消費者物価指数、英3月雇用統計、独4月ZEW景況感指数、22日に英3月消費者物価指数、英3月生産者物価指数、英3月小売物価指数、23日に独4月製造業PMI速報値、独4月サービス業PMI速報値、ユーロ圏4月製造業PMI速報値、ユーロ圏4月サービス業PMI速報値、英4月製造業PMI速報値、英4月サービス業PMI速報値、24日に英3月小売売上高、独4月IFO景況感指数などが予定されている。

MINKABU PRESS 佐藤昌彦

※投資や売買についての判断は自己責任でお願いします。

<免責事項>

本レポートは情報の提供のみを目的としています。投資に関する最終判断はご自身の責任においておこなわれるようお願いいたします。また本レポートに掲載している情報の正確性については万全を期しておりますが、人為的、機械的その他何らかの理由により誤りがある可能性があり、株式会社ミンカブ・ジ・インフォノイドは、利用者がこれらの情報を用いて行う判断の一切について責任を負うものではありません。また、株式会社ミンカブ・ジ・インフォノイドが提供するすべての情報について、許可なく転用・転載等することを固く禁じます。

<著作権について>

本レポートの著作権は、原則として当社(株式会社ミンカブ・ジ・インフォノイド)が保有しており、著作権法、その他の法律および条約により保護されています。本レポートご利用のお客様は、私的使用目的の複製、引用等著作権法上認められている範囲を除き、当社およびその他著作権者の許諾なく、これらの著作物を翻案、公衆送信、営利を目的とする使用等いかなる目的、態様においても利用することはできません。